



喜びと笑顔に出会うために

## ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、日本人のノーベル賞受賞、ラグビーワールドカップでの躍進、そして金星探査機あかつきの快挙などに沸く一方で、世界的なテロ、銃撃事件、航空機墜落事件の続発、日本では米国の普天間基地の移設、南シナ海での領有権問題、集団的自衛権容認問題など政治的な問題に加えて、経済的には中国の株価暴落、社会的には同性婚をめぐる動きがあるなど、今の時代の複雑性と混迷状態が一気に噴出した年でした。

そのなかで建築業界でのくい打ち偽装、会計不正、血液製剤不正隠ぺい、テレビ業界でのやらせ問題、介護保険の不正取得問題などは、人間や組織がいかに正しいことを貫くのが難しいかという人間の弱さを露呈する問題でもありました。

私どもの法律事務所では、単なる法律的な解釈や判例をご紹介する単純な業務ではなく、この時代を正確にとらえながらも、人間として他人と共感する能力、人間関係の機微を感じ取る能力などを大事にし、お客様の日常の生活や事業の向こうにある目的と意義を追求するなかで法務相談のなかにチャンスや喜びを見出して、皆様方の正しさに勇気を与える、そんな仕事をさせていただきたいと考えております。

どうか本年も当法律事務所に御愛顧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

2016年（平成28年）1月

弁護士法人神戸シティ法律事務所  
代表社員弁護士 井口寛司

News  
Letter

VOL.4

H28.1.1 発行



# 初めに言葉ありき

今回は「3ヶ月で英語ペラペラ」の本城式英会話スクール校長の Nori こと本城武則さんの登場です！Nori は、なぜ優秀な日本人が英語が話せないのか、どうしたら話せるようになるのかについて10年以上研究を続けています。その結果、心の壁（メンタルブロック）さえ取り除けば、誰でも英語はペラペラになれる、という仮説が正しいことを確認してきました。



これまでに6千人以上の生徒が本城式英会話スクールを卒業しています。「すべての日本人が英語を身につけ『自由の翼』を手に入れて羽ばたくために」楽しく学ぶをモットーに、FAA（アメリカ連邦航空局）で学んだ科学的教授法により、ひとりでも多くの人に「世界で通用する英語力を身につけていただく」ことを使命と信じて活動を続けておられます。その Nori と奥様で副校長の Sara こと本城さゆりさんに、当事務所の代表弁護士井口寛司と石橋伸子がお話を伺いました。

## 【出会い】

**井口** 私たちは、本城式英会話スクールの生徒として、Nori ノリと Sara セーラにお会いしました。ここでは先生と呼ぶのではなく Nori と Sara と呼ぶんです。そして、私たちにも English ネームを付けなさいと指導され、私は George ジョージ、石橋は Anne アンと名乗り、Nori も Sara もいつも George、Anne と呼んでくれています。とても照れくさく、最初、なぜなのかなと思ったのですが、これは「心の壁を取り除く」効果がありますね。また、発音についても、日本人が外国で記者会見するシーンなどでカタカナ英語で話しているので、あれでいいんだと思込んでいたのですが、あれでは相手には聞こえないですよと言われました。英語の音の出し方をイメージで教えていただいた（イメージフォニックス）のも大きかったです。本城式は、私にこれまで以上の積極性をくれました。実際、外国に行くときには飛行機に乗ったときから CA さんはじめ話しかけるようにしていますが、楽しいんですね。

**石橋** ところで HP を拝見すると「EQ ベーシック」というクラスが始まっているんですね。これは一体どんな内容のコースですか？

**Nori** 本城式英会話スクールの内容から、英会話の要素を除いたクラスで、一言で言うと、EQ（心の偏差値）を上げて、コミュニケーション能力をアップさせるコースで、英語は一切使わないんです。

**石橋** へえ～！何がきっかけで始められたのですか？

## 【会社も良くなる】

**Nori** ある会社の社長さんが私たちの生徒さんで、当初、心の問題を抱える従業員の対策として入り、そこで EQ（心の偏差値）を上げるワークだけを行うプログラムを作っていました。社長や役員の方から始めて、管理職、中間管理職、新入社員まで、順にプログラムを実施していったのです。結局4年間、その会社に通いましたが、驚くほどの効果上げました。社員のメンタルブロックがはずれ、コミュニケーション

ン能力が飛躍的に伸び、職場がとにかく明るくなった。そして業績がアップしたのです。

**井口** グループで一人一人をみんなで褒めあげたり、ホワイトボードに書かれた絵を言葉だけで伝え、聞く側が絵にしていくゲームなど、英会話クラスと同じ方法ですか？

**Sara** そうなんです。本城式英会話スクールと同じように、ゲラゲラ笑いながらゲームをやったりしていったんですよ。

**Nori** 私たちの考え方は、外国暮らしの経験から、コミュニケーションのなかでは間違いが起こっても当たり前だよね、というところからスタートします。間違いが起こって当たり前なので、じゃあ、どうしてうまく伝わらないかを実践してもらいます。すれ違いが起こって当たり前なんだよと考えるとコミュニケーションは変わっていきます。つまり、どうやったら伝わるか…コミュニケーションの抽象度レベルを下げていくんですね。上司からの「頑張れ」という言葉も、いったい何を頑張るのか。「常識だろ」って言っても、何が常識なのか、上司と部下では「常識」の中味が違う。これを具体的にわかりやすくするクセをつけていくのです。

**Sara** 日本人にはコミュニケーションのルールというのがないんです。本城式では、人の悪口、陰口を絶対に言わない、という校則を作っています。英語を学ぶときに、間違ったり、カッコ悪くても、ほかの人に悪く言われぬ、という環境を作ると、みんなが安心して会話できるんです。

**Nori** 上司からすれば、報告・連絡するのが当たり前、常識。しかし部下にとっては、それが当たり前ではない。常識の内容

が食い違っているのに、そこについては話さない。居酒屋なんかに行っても、ほとんどみんなが他人の悪口を言ってますよね。「それくらい常識だよ、あいつどうしてわからないんだ。」なんてね。会社の中で、言いた



いことを言えない雰囲気があり、コミュニケーションギャッ



プが生じているのに、それを社内で解消できていないんだろ  
うなということです。そこをところを理解して、組織にある  
断層のようなものを解消していくことを大事にしていくんで  
すね。

**Sara** その会社では社内が活気づいて、これまで消えかかっ  
ていた野球チームが復活して優勝することもあったそうです。

**【初めに言葉ありき】**

**石橋** 英語圏には、コミュニケーション  
のルールがあるのですか？

**Nori** 暗黙のルールではありますが、  
厳然としてあります。西洋社会のルー  
ルは、バイブル、聖書ですね。聖書の  
一番最初に書いてあるのが、「初めに言  
葉ありき」。旧約聖書にまでさかのぼると、その文化は世界の  
なかで大きなシェアを占めていますから、キリスト教でもイ  
スラム教でも、すべて同じ考えになっています。とにかくし  
ゃべって説明することが大事だという文化で、それがルール  
です。



**Sara** うちの子どもたちもオーストラリアで育っていますか  
らコミュニケーションはすべて日本のではないですね。きち  
んと特定した言葉で言わないと通じないんです。

**Nori** 先日、私が、独立している娘に電話して「今日、う  
ちにいる？ 宅配が届くからうちで待っててくれる？」と言  
ったら、自分のマンションに帰って宅配を待っていたというこ  
とがありました。「うち」なんて言葉は、英語では言いません。

**My** か **Your** を付けないと会話にならないわけです。それは、  
西洋社会の場合、天上で神様がすべての会話を記録している  
という考え方があり、その神様が分かるように会話しないと  
いけないというルールがあるのです。夫婦の間でもパパ、マ  
マなんて呼び合うと、夫にも妻にも自身のパパとママがいま  
すから、誰のことかわからなくなってギャップが生じてしま  
う。だから、**my** とか **your** とか **the** とかいう言葉がとて  
も大事なんですよ。

**石橋** なるほど。日本は「察しろ」という文化ですものね。  
私たちの弁護士の仕事においてもこれは凄くありますね。「初  
めに言葉ありき」ではなく、察する文化ですから、きちんと  
契約書にすることを潔しとしないわけです。契約をするとき、  
つまり信頼関係のあるときにこそ問題が発生したときのこと  
を想定して、解決ルールを決めて文言にしておくべきなの  
ですが、なかなか実現しません。問題が発生したときは「別途  
協議」にしておかないと相手を信頼していないみたいだ、契  
約ができない、と言われることは少なくありません。

**Nori** 夫婦でもきちんとルールを決めていますよ。昔、「九州  
男児が教える嫁を操縦する9つのルール」という本を出版し  
たことがあります。テーマは過激ですが（笑）、読むと、夫婦

でもルールを決めて、奥さんをとて大事にするというこ  
を書いた本です。夫婦関係ではいけないというルールを  
作ろうということです。たとえば、相互に実家の親せきの悪  
口を言わないというルールです。「あなたのお姉さんって、ち  
よっとひどいよね。」って奥さんに言っても、「ちょっと姉に  
電話しておくわ。」って言って解決できることではないですよ  
ね。どうにもならない。言うだけで、夫婦関係はこじれてい  
きますよね。だから、絶対言わないというルールを決めてお  
くことで、お互いが安心して、いろいろなことを話せますし、  
お互いが疑心暗鬼にならずにすんで、良い関係が保てるとい  
うことです。

**井口** 契約書の世界では「別途協議」というのはルールなし、  
ということですから、かえって、トラブルになっていたり、  
解決が困難になっていきますね。

**Nori** 日本社会は、稲作社会、農業社会として発展してきて  
いるから、みんなで助け合う社会でした。人に嫌われると田  
んぼを手伝ってもらえなくなる、だから、他人に何か言われ  
なくとも相手の考えを察して、トラブルが起こらないように  
してきました。和の精神ですね。そして、もし紛争が起こっ  
たら、ムラの長がこれを解決するというシステムでした。

**石橋** 稲作でも二期作や三期作のできる東南アジアとは違っ  
て、冷夏には不作で飢饉となるような国土ですから、助け合  
い度も高く「察する文化」となったんでしょうね。裁判のシ  
ステムも、西洋社会の輸入品ですから、対立構造になってい  
て、お互いが主張と立証を精一杯行って、これをレフリー役  
の裁判官が判断するという構造になっています。しかし、今  
でも裁判所という「お上」が、大岡裁判をしてくれると思っ  
ておられる方が少なくないです。紛争になることを前提にし  
ていない和の精神と紛争になったらお上が決めてくれるとい  
う精神が浸透してしまっていますので、契約書も作らない、  
当事者同士のルールを決めようとしないうということになるの  
ですね。

**井口** 何か紛争が起こったら、裁判所がきちんと適切な解決  
方法を出してくれると勘違いされている状況がありますね。  
だから「裁判所さん、決めてください」という訴訟をしてし  
まう。裁判所も、一定限度は、当事者が決めていたであろう  
合意というものを探ろうとして、なんとか解決指針を導き出  
そうとするのですが、最近、価値  
観が輻輳（ふくそう）する社会とな  
っているため合理的な接点を見出  
すことができないことが多い  
に思います。そのため紛争は解決せ  
ずに、一審、二審、最高裁とすごい  
時間がかかり、結局どうにもならな  
い状態になってしまう。





### 【群れる社会と群れる必要のない社会】

**Nori** ある研究で、日本人は、不安を感じる遺伝子が多いということを知ったことがあります。心配症が多いんですね。孤立すると不安になる世界観をもっています。

**石橋** 西洋社会は違いますか。

**Sara** 違うと思います。神とつながっていることこそが大事ですから、個と個のつながりが希薄でもあまり気にならない



ようですね。オーストラリアにいたときに、まだうちの子どもたちが小さいときのことです。数人の子どもたちが集まっていたところで、1人の子が悪口を言われていたんですね。あんまり酷いので、注意しようかなって思っていたところで、ある子どもが、「でも、あの子は神

様には好かれているよ。」と言った途端、「そうだよね。」って、悪口はスーッと終わってしまった。人は神様とつながっている、神様はその子も大切にしているから、みんながどう言おうと神様とつながっているのだからいいんじゃない、という文化がある。そんな小さな子どもたちでもそうした基礎を持っているんですね。

### 【英会話から世界平和へ】

**石橋** Nori と Sara の夢は、東京オリンピックまでに、外国人が街で困っていたら、日本の小学生以上の全員が、英語で話しかけて助けてあげられるくらいの英語力をつけること、でしたよね。事業は英会話を超えてきておられますが、お二人の夢をお聞かせください。

**Sara** 日本の小学校では英語レッスンが始まっていますが、私は、子どものときからフォニックスを取り入れた学習を受けてほしいと思っているんです。そこで、小さな子どもとそのお母さんたちを対象とした英語教室を考えています。本城式のイメージフォニックスを取り入れ、英語の本を見ただけで発音記号を知らなくても英語を読めて、聞けて、そして話せる、という、英語教育の教材を作成中で、まずは東京で教室を開く予定です。その実現が夢ですね。

**Nori** 私のもう1つの夢は、世界平和のルールを発見して言語化することです。私の名前は武則。武則の「武」は、いくさを止めると読めます。そして「則」はルール。国際社会が大混乱になっている今の世で、世界の平和に向けて、いくさを止めるルールを発見して、世界を平和にしていきたい

と考えています。それは、私がカリスマとして、というのではなく、「モックタイナイ」の様に、世界中の人が言葉で共有できて、あちこちから色んな知恵が生まれてくるような、そんな言葉で、ルールを表すものを見つけたいんですね。

ルールと言えば、今の日中韓で問題になっている紛争も、日本人が世界のルールを知らないことから、いつまでも混乱に巻き込まれているような気がします。徹底した平和主義をとるニュージーランドやノルウェー、ルクセンブルクでだって、国のために戦って亡くなってしまった人に対しては、小さな子どもまでもが敬意を表しています。しかし日本は、米国の占領政策なのかどうか、それをしてはならないと教育されてきた。その結果、現代のルールでいまだに過去が裁かれています。事後法で、過去を裁かないというのは世界のルールです。あの戦争への反省をしながらも日本人が、その苦しみから解放されていく術を考え、自分たちのプライドを取り戻していくことこそがとても大事であり、自信やプライドを取り戻せば英会話もできるようになると思っています。

アメリカンインディアン、アボリジニなどとは違い、西洋から排除されてしまわずに先進国入りできたネイティブって、日本人くらいですよ。西洋社会は逆に、自分たちの社会に行き詰まりを感じていて、この極東の地にある、非常に高い能力を持った日本人や日本社会に解決の視点を見出そうとしているのも事実です。ですから、その日本から、世界平和の実現に向けた発信ができるのではないかと考えています。

**石橋** 深くてももしろいお話をありがとうございます！最後には壮大な夢もお伺いできました。

**井口** 諸事に追われて中断していましたが、今年はまだ、本城式英会話スクール梅田校に行かせていただきます、どうぞよろしく。

**Nori & Sara** お待ちしますよ、George & Anne！

(対談日：平成27年11月20日)

本城式英会話スクール <http://www.leq.jp/>

渋谷・新宿・丸の内・名古屋・大阪・シンガポールにて開校。

校長：本城 武則 (Nori)

副校長：本城 さゆり (Sara)

### コミュニケーションのルール

この対談に同席させて頂いて「コミュニケーションのルール」ということを自分の日常に照らして考える機会を得ました。私は、コミュニケーションはトライ&エラーを繰り返すことで良くなっていくものだと考えています。仕事において「コミュニケーション不足だ」と認識されることがあっても、お互いに怒ったり落ち込んだりせず、新しい気づきとして何度もトライしていくことがひとつのルールなのだと思います。伝えようという気持ちと理解しようという気持ちとがあれば、想像力が働いてより良いコミュニケーションになっていくのだと思います。(事務課 藤本 洋子)